

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 13 日

## 【評価実施概要】

|       |                                      |       |                   |
|-------|--------------------------------------|-------|-------------------|
| 事業所番号 | 3871400267                           |       |                   |
| 法人名   | 株式会社 新風会                             |       |                   |
| 事業所名  | グループホーム 蒼月                           |       |                   |
| 所在地   | 愛媛県西予市宇和町岡山5 4 5番地 (電話) 0894-66-0234 |       |                   |
| 管理者   | 浮村 祐政                                |       |                   |
| 評価機関名 | 愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班                    |       |                   |
| 所在地   | 愛媛県松山市持田町三丁目8-15                     |       |                   |
| 訪問調査日 | 平成 19 年 9 月 7 日                      | 評価確定日 | 平成 19 年 11 月 15 日 |

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 18 日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |                   |                              |      |
|-------|-------------------|------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 12 月 26 日 |                              |      |
| ユニット数 | 2 ユニット            | 利用定員数計                       | 18 人 |
| 職員数   | 16 人              | 常勤 10 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 6.9 人 |      |

### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |            |                |          |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額)            | 25,000 円   | その他の経費(月額)     | 6,000 円  |
| 敷金                  | 有( )円 ○ 無  |                |          |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( )円 ○ 無  | 有りの場合<br>償却の有無 |          |
| 食材料費                | 朝食         | 140 円          | 昼食 350 円 |
|                     | 夕食         | 350 円          | おやつ 円    |
|                     | または1日当たり 円 |                |          |

### (3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 18 日事業所記入)

|       |         |         |         |
|-------|---------|---------|---------|
| 利用者人数 | 18 名    | 男性 7 名  | 女性 11 名 |
| 要介護 1 | 4 名     | 要介護 2   | 3 名     |
| 要介護 3 | 8 名     | 要介護 4   | 2 名     |
| 要介護 5 | 1 名     | 要支援 2   | 名       |
| 年齢    | 平均 81 歳 | 最低 56 歳 | 最高 94 歳 |

### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

|    |    |                    |
|----|----|--------------------|
| 指定 | あり | 指定介護予防認知症対応型共同生活介護 |
| 指定 | なし | 指定認知症対応型通所介護       |
| 届出 | なし | 短期利用型共同生活介護        |
| 加算 | あり | 医療連携体制加算           |

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園と小高い山に囲まれた静かな場所に建つ洋風3階建ての2・3階部分で、1階はデイサービスである。運営者は医師で、他にも多くのホームを経営し、運営方法や介護方法など共有できる所は浸透させ、それ以外は管理者と相談しながらサービス向上に努めている。そのため開設2年目のホームではあるが、ターミナルケアや地域とのつながりにも積極的に取り組み、職員は豊富な経験で工夫を重ねている。昨年ホーム単独で行った納涼祭を、今年は地元の方の勧めで同地区のそれぞれ母体の異なる3つの高齢者福祉施設合同で行い、盛況であった。職員は、準備は大変だったが利用者の表情が笑顔で嬉しかった、と振り返る。

## 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)  
 前回評価を受け、玄関周りを利用者の作品で飾る、利用者の生活歴を知るため「利用者・家族ノート」に情報を記録する、職員主体で立ち上げた給食委員会で栄養について学習する、緊急時対応マニュアルの中に疾病別マニュアルを作成する、など各項目について積極的に改善に取り組んでいる。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)  
 自己評価シートを職員全員に配布し、各職員が記入したものを各ユニットのホーム長がまとめている。職員から「言葉が難しかったが、できていることとできていないことを実感した。」との感想が聞かれた。管理者は運営推進会議で外部評価の結果について報告する予定にしている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)  
 地元在住の職員が少ないので、運営推進会議に近隣の区長を招き、地域の細かな情報を得ている。市担当者も参加し、介護保険制度の話等を地域住民が聞ける場にもなっている。防災をテーマにした会議では、避難場所を小学校からもっと近い公民館にした方が便利ではないかとの助言を得て変更した。行事のチラシを広範囲に配布してはどうかとの意見が出て、地区全体に600枚、ポスターも15枚商店などに配布して協力を得ている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)  
 家族会で職員が席をはずして意見を出してもらう時間を設けている。重要事項説明書に苦情窓口として第三者機関を明示している。家族からの情報を記す「利用者・家族ノート」を作成している。家族への情報提供として定期的に利用者の日々の暮らしがわかる「ホーム便り」を送付しているが、金銭出納帳の写しなどを届けることも望まれる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)  
 1階のデイサービスを利用する近隣の方々もおり、地域福祉に貢献する施設と認識されている。過去に一度利用者がホームの外に出たことがあったが、近隣の方からホームに連絡があり大事には至らなかった。日ごろの挨拶や、野菜の差し入れもあり、良好な関係が築けている。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム蒼月

(ユニット名)

第1ユニット

記入者(管理者)

氏名

浮村 祐政

評価完了日

平成 19 年 8 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

| 自己評価               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                            |
|--------------------|------|--|---|----------------------------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |      |  |   |                            |   |
| <b>1. 理念と共有</b>    |      |  |   |                            |   |
| 1                  | 1    | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている       | (自己評価)<br>その人の持っているものを最大限に活かせるよう、目標を定めている。しかし全員で作上げたものではない。                             | ※                          | 全職員が考え、常に実行できるものを作り上げていきたい。                                       |
|                    |      |  | (外部評価)<br>運営法人の理念に沿って、ホーム独自の介護方針を各ユニットのホーム長が協同で作っている。一年の目標、一か月の目標を職員が話し合って決め、掲示している。    | ※                          | ホームのある地区外に居住する職員も多いので、ホームは地域の一員であることを自覚するために地域に関する具体的な理念の作成を期待する。 |
| 2                  | 2    | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                          | (自己評価)<br>利用者が持っている力を発揮できるよう、日々の関わりの中で話し合い、試行錯誤しながら実践している。                              | ※                          | 介護計画にも取り込みながら行っているが、もっと共有できるよう検討していきたい。                           |
|                    |      |  | (外部評価)<br>管理者と職員は月1回の職員会とケアカンファレンスで理念に基づいたケアを行うことを話し合い共有している。日々の生活の中で困った時も職員同士で話し合っている。 |                            |   |
| 3                  |      | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | (自己評価)<br>広報での取り組みについての報告や、行事や見学等で来られた方へ説明している。   | ※                          | 行事等をきっかけに、理解を深めていただけるよう努力している。                                    |

| 自己評価                         | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                     |
|------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |      |  |   |                            |  |
| 4                            |      | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている      | (自己評価)<br>あいさつから始まり、一度来られた方がまた来ていただけるよう会話を大切にしている。  | ※                          | まずは知っていただくために、行事等をもっと増やしていき、来やすい雰囲気作りをしていく。                |
| 5                            | 3    | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている        | (自己評価)<br>運動会や文化祭への参加を行っている。カラオケなどのボランティアとして来ていただくこともある。<br><br>(外部評価)<br>広報は民生委員が持参してくれる。小学校の運動会や祭りに声をかけてもらい、参加している。また、ホームが行事を開催することにより地域の子どもたちがホームに立ち寄るようになり、親近感を持って受け入れてくれるようになってきている。   | ※                          | 公民館での活動参加や清掃活動などにも積極的に取り組んでいきたい。                           |
| 6                            |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | (自己評価)<br>実践できていない。   | ※                          | 介護教室等取り組んでいきたい。  |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |      |  |   |                            |  |
| 7                            | 4    | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる          | (自己評価)<br>全職員に記入してもらい、自分ならどうするかを考えるきっかけとして活用している。できることから改善していきたい。<br><br>(外部評価)<br>自己評価は管理者、職員全員で取り組んでいる。外部評価実施後、できることから改善に取り組んでいる。管理者は認知症介護の経験が豊富にあり、課題を数多く認識しているが、介護業務に従事しているため、解決することに専念し難い。職員会や運営推進会議などを利用して一つ一つ善処することを期待したい。 | ※                          | 実際に改善できている点は多くないが、改善すべき箇所は評価表によって理解が深まっている。できることから取り組んでいる。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                    |
|------|------|---|---|----------------------------|---|
| 8    | 5    | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている         | (自己評価)<br>意見に対する取り組みについて、できることはすぐに行い、次の会議で報告している。すぐに行えないことについては、進捗状況を伝えたり、もう一度議題として取り上げたりしている。<br><br>(外部評価)<br>利用者、家族、区長、市担当者、民生委員、地域の福祉施設職員などが参加し、ホーム内で1～2時間行っている。活発な意見交換ができており、過疎が進む地域にあって、子ども達に対して、或いは若い人の交流の場として活動を求められるなど周辺の期待は大きい。 | ※                          | 構成員の方から、いつも貴重な意見を聞くことができ非常にありがたく、楽しみでもある。今後、評価についての取り組みについて一緒に考えていきたいと思う。 |
| 9    | 6    | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>実践できていない。<br><br>(外部評価)<br>運営推進会議のメンバーとして、市の担当者が入っている。介護教室開催などの要請はないが、市主催の情報交換会に出席している。   | ※                          | 市主催の会議などにも参加できるよう努力していきたい。  |
| 10   |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | (自己評価)<br>全職員が理解できているとは言えない。必要と思われる方には説明している。   | ※                          | 外部への研修参加を促し、全職員が理解できるよう勉強会を行う機会を設ける。                                      |
| 11   |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている          | (自己評価)<br>全職員に周知できていない。   | ※                          | 勉強会を行ったり、常日頃から暴力だけが虐待でないことを伝えていきたい。                                       |

| 自己評価                   | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                  |
|------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |      |   |  |                            |   |
| 12                     |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている    | (自己評価)<br>契約書に沿って事前に説明し、納得した上で利用していただけるよう努めている。利用後でも疑問点があれば、その都度説明を行っている。  | ※                          | 説明と実際に行っている内容に食い違いが生じないように、利用者や家族等からの意見を大切にしてい          |
| 13                     |      | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | (自己評価)<br>運営推進会議で利用者から意見を聞いたり、普段から会話を持つ機会を多くとっている。   | ※                          | 不満等は利用者個々によって違うということの理解を深め、それぞれに合った適切な方法を介護計画にも反映させていく。 |
| 14                     | 7    | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | (自己評価)<br>広報での報告や、家族会、面会時等で行っている。来られない家族については自宅へお伺いして説明している。<br><br>(外部評価)<br>家族の面会時に報告し、希望等を確認している。年3回行われる家族会(花見、バーベキュー、芋炊き等)でも報告している。ホームに来ることのできない家族には主に電話で連絡を取るが、自宅を訪れて説明することもある。 |                            |   |
| 15                     | 8    | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | (自己評価)<br>家族会で、職員が席をはずして家族同士での要望等を出し合っただけ、記録してもらっている。要望等のノートを作成し、全職員に周知できるようにしている。<br><br>(外部評価)<br>玄関に「意見箱」を設けている。重要事項説明書にホーム、運営法人の他、県と市の相談機関も明示している。市の介護相談員も受け入れている。               | ※                          | 周知だけでなく、全職員で検討する機会をもっと増やしていく。                           |

| 自己評価               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 16                 |      | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | (自己評価)<br>職員会等で行っているが、一人ひとりの意見が反映できているかは疑問である。   | ※                          | 日々の業務の中でもっとコミュニケーションをとっていく。  |
| 17                 |      | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている                      | (自己評価)<br>支障のないよう組んでおり、状況に応じて調整も行っている。   |                            |  |
| 18                 | 9    | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | (自己評価)<br>職員が代わった場合は、利用者との顔合わせに馴染みの職員が付き添い、紹介したり仲立ちとなってお互いの負担軽減に努めている。<br><br>(外部評価)<br>異動や離職は「ホーム便り」で顔写真とコメント付きで紹介している。異動があるときは1か月間日勤で、1名増員体制で業務を行い、利用者へのダメージを防いでいる。                                  | ※                          | 不安のある利用者に対しては馴染みの職員がフォローしていきながら、徐々に新しい職員とも馴染んでいけるよう努力している。                               |
| <b>5. 人材の育成と支援</b> |      |  |  |                            |  |
| 19                 | 10   | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | (自己評価)<br>外部研修会の案内と参加を促している。勉強会ではテーマや担当者を決めて全員が発表者となるようにしている。<br>日々の業務の中で介助方法などを話し合いながら実践している。<br><br>(外部評価)<br>グループホーム連絡協議会や、地域の研修を職員の希望によって受講できる。出張(研修)報告書を提出すれば、研修費用が出るシステムがある。研修報告書を使って内部研修を行っている。 | ※<br><br><br>※             | 段階に応じた育成方法の確立を目指していきたい。<br><br><br>ターミナルを視野に入れたホームだけに、職員の医療面の不安を研修で補うことが求められ、更なる努力を期待する。 |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 20                               | 11   | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価)<br>他の施設と合同でクリスマス会や七夕会を行ってきた。納涼祭も予定しており、そこから協力体制も徐々に築けているように思われる。<br><br>(外部評価)<br>デイサービスを併設した大きな建物と駐車場を利用し、地域の3つの高齢者福祉施設合同でクリスマス会や祭りを行っている。準備段階から話し合う機会を持つので、自然に情報交換ができ、お互いの良さを共有してレベルアップが図れている。行事だけでなく、勉強会や防災訓練の共同開催の要望も出ている。 | ※                          | 今後、災害時の協力体制や相互勉強会等も進めていきたい。            |
| 21                               |      | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる                                    | (自己評価)<br>ストレス軽減について課題は多いと感じている。メリハリのある環境整備をしなければならない。  | ※                          | コミュニケーション不足を解消することから始めたい。              |
| 22                               |      | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている                        | (自己評価)<br>研修等、意欲のある職員に対して優先的に参加してもらっている。  | ※                          | 意欲を引き出せるよう、本人に合わせた研修方法等の確立を目指していく。     |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>     |      |   |   |                            |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |      |   |   |                            |  |
| 23                               |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている             | (自己評価)<br>事前に必ず本人と家族に会い、本人の発言やしぐさ等から思いを読み取れるよう努力している。   |                            |  |
| 24                               |      | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                  | (自己評価)<br>基本的にまず本人とお話した後、家族の思いを聞くようにしている。介護計画にも反映させる。   |                            |  |

| 自己評価                      | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)     |
|---------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 25                        |      | ○初期対応の見極めと支援<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                               | (自己評価)<br>まず、なぜこの施設を希望されたのかを聞く。その上でもし他のサービスのほうが適していると感じれば提案することもある。   | ※                          | もっと他サービス機関と連携を深めておかなければならないと感じる。           |
| 26                        | 12   | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | (自己評価)<br>家族の面会や外出等をすすめている。<br><br>(外部評価)<br>管理者は、入居者の自宅に何うことで日々の暮らしぶりをキャッチし、ケアに生かすことがホームに早く馴染める方法であると考えている。自宅から入居の場合は見学、自宅訪問の後入居となり、病院から入居の場合は病院職員同伴にての見学、入居という運びになり、ホーム入居後、自宅訪問して情報を得ている。 |                            |  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |      |  |   |                            |  |
| 27                        | 13   | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | (自己評価)<br>できることや好きなことを一緒に行ったりする中で、教えていただくことは多いと実感している。<br><br>(外部評価)<br>職員は、利用者の昔の生活の話や、していた仕事の話聞くことを楽しんでいる。料理の仕方を教わったり、テレビの時代劇を一緒に見たりして、時間を共に過ごしている。                                       | ※                          | この部分を一番大切にしていきたい。                          |
| 28                        |      | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている                                 | (自己評価)<br>家族会など、利用者と一緒に過ごす時間を持っていただく機会を増やし、一緒に考えていけるよう心がけている。   | ※                          | 家族会や納涼祭のような全体の行事だけでなく、外出や食事など個別にも実施していきたい。 |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)               |
|------------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 29                                 |      | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | (自己評価)<br>家族会など、利用者と一緒に過ごす時間を持っていただく機会を増やしている。  | ※                          | なかなか本人と会えない家族に対しては、広報や口頭で状況を伝えたりして、関係が途切れないよう配慮している。 |
| 30                                 |      | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている               | (自己評価)<br>本人の希望に沿って自宅やその周辺に出かけたりしている。親戚や知人と会い、楽しそうに会話される姿は印象的である。   | ※                          | 観光地等に出かけるのも喜ばれるが、懐かしい場所はもっと喜ばれる。家族とも相談しながら実施している。    |
| 31                                 |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | (自己評価)<br>職員が仲立ちとなって対応できるようにしているが、折り合いが悪いときには離れていただき、それぞれをフォローするよう心がけている。   |                            |  |
| 32                                 |      | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | (自己評価)<br>面会に行ったりして様子伺いをすることもある。  | ※                          | 本人や家族が安心できるような関係を築けるよう、現在を大切にしていきたい。                 |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |                            |  |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                 |      |  |   |                            |  |
| 33                                 | 14   | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                   | (自己評価)<br>月1回の会議や介護計画の見直し時に、職員間で話し合いをしている。希望や意向を把握し切れているとは言えないが、本人の思いを読み取ろうと努力している。<br><br>(外部評価)<br>今年から家族や利用者の声を介護計画に生かそうと、ノートに書き取り、情報を職員が共有できるようにしている。食事中落ち着かない利用者には好きなドライブをしてから食事をすすめるなどの工夫をしている。 | ※                          | もっと様々な視点から見えていけるよう、意見の出し合いの活発化や実現方法について検討していきたい。     |

| 自己評価                           | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 34                             |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | (自己評価)<br>利用前にある程度は聞いているが、情報は利用されてからのほうが多く、会議で出されることもあるが、記録が不十分である。   | ※                          | 本人や家族から聞いたことを記録していくようにし、把握に努めていく。      |
| 35                             |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | (自己評価)<br>毎日のバイタルチェックや、申し送りによる夜間や日中の様子を把握しながら接している。介護計画に沿って本人の持っている力を引き出せるよう努力している。   |                            |  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し |      |   |   |                            |  |
| 36                             | 15   | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | (自己評価)<br>本人が持っている力を引き出せるよう話し合いをしている。<br><br>(外部評価)<br>1冊の介護記録に全員の長期介護計画、1か月の介護計画、1日の介護計画がまとめてファイルされ、ケア目標を確認しながら記入している。利用者・家族ノート、申し送りノート(利用者用)、申し送りノート(スタッフ用)と3冊のノートを作っている。 | ※                          | もっと家族の意向を聞きだせるよう努力したい。                 |
| 37                             | 16   | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | (自己評価)<br>介護計画の見直し時期及び月1回の会議で変化のある方の検討をしている。<br><br>(外部評価)<br>介護計画は3～6か月に1回完全な見直し作業を行っているが、月に1回のカンファレンス会議では、利用者全員について話し合っている。利用者の状態に変化があった場合には、随時見直している。                    | ※                          | もっと本人の状態にあったものにしていきたい。                 |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 38                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | (自己評価)<br>介護計画に対するもの、その他変化の合ったことなどを記入しているが、書き方を検討中。   | ※                          | 見直しに活かせる記入方法を検討していく。                   |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |      |  |   |                            |  |
| 39                                 | 17   | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている              | (自己評価)<br>状態に応じた援助方法を検討しているが、十分とは言えない。<br><br>(外部評価)<br>家族も高齢な方が多いこともあり、利用者の通院はほぼホームが支援している。利用者の希望に応じて、昔よく行ったお寺、神社のお参りや、墓参り、買物など、細やかな対応を心がけて支援している。 | ※                          | 画一的でない本人に合ったものを提供できるようにしていきたい。         |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |      |  |   |                            |  |
| 40                                 |      | ○地域資源との協働<br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | (自己評価)<br>安心して楽しく生活できるよう、防災訓練の実施やボランティアの受け入れなどを行っている。   | ※                          | もっと幅広く資源の活用ができるよう働きかけていきたい。            |
| 41                                 |      | ○他のサービスの活用支援<br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | (自己評価)<br>できていない。   | ※                          | 本人がより多くの選択肢を持てるよう努力しなければならない。          |
| 42                                 |      | ○地域包括支援センターとの協働<br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | (自己評価)<br>現在行っていない。   | ※                          | 今後、協働して様々な面から本人を支えられるよう努力していく。         |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------|------|--|---|----------------------------|--|
| 43   | 18   | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                          | (自己評価)<br>契約時に協力医療機関の説明をしている。希望に沿って他の医療機関にかかられる方もいる。<br><br>(外部評価)<br>運営者の経営する医療機関以外の病院がかかりつけの利用者もいる。定期的な往診もあり、利用者の健康管理に留意している。   | ※                          | なじみの医療機関があれば、そこで継続できるように支援していきたい。        |
| 44   |      | ○認知症の専門医等の受診支援<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している                         | (自己評価)<br>協力医療機関に相談している。  |                            |  |
| 45   |      | ○看護職との協働<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている  | (自己評価)<br>月2回の往診時や毎日の電話でのやり取りの中で、状態報告等している。   |                            |  |
| 46   |      | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | (自己評価)<br>入院時、医師とのこまめな連絡や、本人・家族と面会しながら情報交換を行っている。   | ※                          | 本人が安心できるよう、なじみの利用者とお見舞いに行くこともある。         |
| 47   | 19   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している              | (自己評価)<br>文書を作成し、方針の説明をしている。<br><br>(外部評価)<br>重度化および看取りに関する指針とターミナルケア説明書を作成し、今の時点で、ホームでできること、できないことを家族に十分説明している。管理者は、グループホームは認知症の方をどなたでも受け入れる場所と認識している。運営者や職員、家族とも話し合いを重ねている。 | ※                          | 本人・家族の考え方にも変化が見られる場合もあるので、その都度話し合っていきたい。 |

| 自己評価                      | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                   |
|---------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 48                        |      | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | (自己評価)<br>協力医療機関に相談しながら行っている。   | ※                          | もっと職員間での話し合いが必要である。不安感を少しでも取り除けるようにしていきたい。               |
| 49                        |      | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている                      | (自己評価)<br>情報提供書を作成し、説明している。移り先へ何度か足を運んで様子を伺いながら、一緒に検討することもある。   |                            |  |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 |      |   |   |                            |  |
| 1. その人らしい暮らしの支援           |      |   |   |                            |  |
| (1) 一人ひとりの尊重              |      |   |   |                            |  |
| 50                        | 20   | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない  | (自己評価)<br>特に排泄時の声掛けに注意している。入浴や更衣等も個別に行っている。記録等は目に付きにくいところに保管しており、内容も他者の実名は書かないようにしている。<br><br>(外部評価)<br>職員は利用者に対して丁寧な対応を心がけている。書類はリビングが見渡せる事務所の奥の棚に適切に保管している。 | ※                          | 慣れによる言葉遣いに気をつけていかなければならない。プライバシーについて定期的に考えていく時間を設けていきたい。 |
| 51                        |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている  | (自己評価)<br>選択できるように声掛けや提示をしているが、本当に本人が希望したものかも一度考え直す必要もあると思う。  | ※                          | この方はこうだからという決め付けがどこかに無いか再点検が必要。                          |

| 自己評価                          | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 52                            | 21   | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価)<br>本人の状態に応じた援助をしている。ただやはり職員の都合になっている場面も見られる。<br><br>(外部評価)<br>ホーム全体に利用者の笑顔と職員の静かな話し声があふれ、ゆったりとした関わりがなされている。食事の時間もかなり長めに取っており、「待つ」姿勢が見られる。  | ※                          | ちょっと待つという言葉が少なくなることを目指していく。            |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |      |  |   |                            |  |
| 53                            |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている            | (自己評価)<br>希望によって地域的美容店に行ったり、訪問美容を利用する方もいる。  | ※                          | 特に女性は化粧なども希望される方は援助していきたい。             |
| 54                            | 22   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | (自己評価)<br>自由献立という日を設けて好みを聞いたりしている。包丁の使える方、野菜の皮なら剥ける方、味見のできる方などそれぞれに合わせて一緒に行っている。<br><br>(外部評価)<br>利用者は職員と共に調理、配膳、台ふき、片付けなどを行っている。職員は同じテーブルに着き、会話を楽しみながらさりげなく支援している。職員はすぐには手を出さず、見守り中心の声かけを心がけている。 |                            |  |
| 55                            |      | ○本人の嗜好の支援<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している            | (自己評価)<br>医師から制限されていなければ自由にしてもらっている。ただタバコに関してはベランダや換気扇の下などでの制限は設けている。ライターも吸わない時はお預かりしている。   | ※                          | 喫茶店など外食は喜ばれるため勧めていく。                   |

| 自己評価                          | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                   |
|-------------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| 56                            |      | ○気持ちよい排泄の支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している       | (自己評価)<br>トイレで排泄できるよう援助している。その結果オムツを使用しなくなった方もいる。  | ※                          | もっと排泄パターンの把握に努めていきたい。汚れたものを交換するのを拒否される方については、入浴を勧めたり時間を置いて再度声掛けなどを行っている。 |
| 57                            | 23   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | (自己評価)<br>毎日入りたい方はそのようにしている。拒否の強い方にはタイミングを検討しながら行っており、無理強いはしていない。<br><br>(外部評価)<br>入浴は毎日可能な状態である。昼から夕方にかけての時間帯が多いが、入る順番や時間帯は本人の希望に添うようにしている。 | ※                          | どの方も安心して入浴できるよう、その人に合った方法を検討している。  |
| 58                            |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している                    | (自己評価)<br>夜は寝たいときに寝てもらおうようにしている。日中でも希望や状態に応じて横になる時間がある。  | ※                          | 日中起きっぱなし、寝っぱなしのないよう、よく状況把握に努めていきたい。                                      |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |      |   |  |                            |  |
| 59                            | 24   | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | (自己評価)<br>室内だけの生活とならないよう、外出の機会を多く持たせたりしている。<br><br>(外部評価)<br>調理、洗濯物干し、掃除などを職員と楽しみながら行っている。行事などでもそれぞれの役割をもって楽しんでいる。                           | ※                          | 趣味を活かしたものなど、選択肢が増えるようにしていきたい。  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)           |
|------|------|--|--|----------------------------|--|
| 60   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | (自己評価)<br>買い物をするときに、各自の財布を持ってもらうこともある。   | ※                          | 手持ちしている方は少なく、買い物時に可能な方に渡すぐらいなので、もっと可能性を見出していきたい。 |
| 61   | 25   | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                     | (自己評価)<br>希望のあったときはもちろん、状態に応じて散歩やドライブに出かけている。<br><br>(外部評価)<br>自由に外出できるので毎日散歩に出かける利用者もあり、職員は見守りながら寄り添っている。帰宅願望がある利用者には、自宅に外泊が可能であれば外泊して気持ちを落ち着かせてもらっている。管理者は「帰りたい」という希望があればその都度対応するよう心がけている。 | ※                          | その人の行きたいところへ可能な限りいけるよう、支援していく。                   |
| 62   |      | ○普段行けない場所への外出支援<br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | (自己評価)<br>自宅や知人の家、墓参りなど希望があるときには一緒に出かけている。   |                            |  |
| 63   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                           | (自己評価)<br>希望時などいつでも電話を掛けたりできるようにしている。  |                            |  |
| 64   |      | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している            | (自己評価)<br>来られた方と居室で一緒にお茶を飲みながら過ごせるよう支援している。  |                            |  |

| 自己評価            | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)     |
|-----------------|------|---|--|----------------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 |      |   |  |                            |  |
| 65              |      | ○身体拘束をしないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価)<br>周知徹底できているとは言えない。会議の中で身体高速にならないように話し合っている。  | ※                          | 勉強会を行っていきながら、意識を高めていきたい。                   |
| 66              | 26   | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                  | (自己評価)<br>夜間以外は鍵は掛けていない。1階の玄関の内側から出るときにはボタンを押さなければ自動扉が開かない仕組みになっている。<br><br>(外部評価)<br>居室に鍵はかかっている。玄関扉は自動で壁にボタンがあり、閉じている時もボタンを押せば開くことを利用者に伝えており、いつでも外に出られる安心感から、外に無理に出ようとする利用者はいない。 | ※                          | 利用者の方にはボタン操作のやり方を伝えている。                    |
| 67              |      | ○利用者の安全確認<br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している                           | (自己評価)<br>本人の好きなところで過ごしてもらうようにしている。居場所の確認をしているが、できていない部分もある。   | ※                          | 一人で屋外に出られる方もおり、注意していく。地域の方に助けてもらったこともある。   |
| 68              |      | ○注意の必要な物品の保管・管理<br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている                     | (自己評価)<br>洗剤や薬、刃物などは所定の場所へ置くようにしている。   |                            |  |
| 69              |      | ○事故防止のための取り組み<br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる                  | (自己評価)<br>マニュアルの作成や、勉強会等で周知しているが、徹底できているとは言えない。  | ※                          | 未然に防ぐことはもちろん、起きてしまったときの対応が迅速にできるようにしていきたい。 |

| 自己評価                       | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|----------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| 70                         |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている                | (自己評価)<br>不十分であると感じている。  | ※                          | 勉強会で定期的に行い、意識をもてるようにしていく。   |
| 71                         | 27   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている  | (自己評価)<br>運営推進会議で地域の協力が得られるよう話し合った。防災訓練を実施している。  | ※                          | 消防立会いのみでなく、定期的な避難訓練や地域の方を交えた訓練も行わなければならない。  |
|                            |      |   | (外部評価)<br>年2回防災訓練を行っている。運営推進会議で防災を取り上げ、避難場所の提案や、ホーム敷地内にホース栓を取り付ける予定ができるなど、対策の具体化が進んでいる。家族会でも家族用の緊急時連絡網の作成を依頼され、作成している。 | ※                          | 熱心に災害対策に取り組んでいるが、災害時には職員が全員を迅速に非難させることは困難と考えているため、地域の協力体制を確保することや、訓練に地域の方々の参加を得るような働きかけを期待する。 |
| 72                         |      | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | (自己評価)<br>危険性はあるが本人が望まれる場合、家族に連絡し、相談して検討している。  | ※                          | 注意点について職員間でしっかりと話し合い、対応方法を考えていく。  |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |      |   |  |                            |   |
| 73                         |      | ○体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている          | (自己評価)<br>毎日のバイタルチェックや、観察により異変がある場合は協力医療機関へ報告し、指示を仰いでいる。   |                            |   |
| 74                         |      | ○服薬支援<br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている      | (自己評価)<br>それぞれの薬のリストを作り、間違いの無いようにしている。内容については情報書をもらい確認している。  | ※                          | 全職員が性格に理解できるようにしていく。  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                     | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                               |
|------|------|---|--|----------------------------|--|
| 75   |      | ○便秘の予防と対応<br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる    | (自己評価)<br>トイレに座ることを基本としながら、おやつに牛乳等を提供している。便秘薬の調整も行っている。            | ※                          | 排便の確認をもっとやっていきたい。  |
| 76   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている              | (自己評価)<br>毎食後の徹底はできていないが、その人に合ったやり方で行っている。                         |                            |  |
| 77   | 28   | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価)<br>十分とは言えない。その人に合ったカロリーの計算などできていない。                         | ※                          | 保健師や栄養士の指導を受けるようにしていきたい。   |
|      |      |   | (外部評価)<br>業務日誌には食事摂取量が記入されている。給食委員会で食事の勉強がなされ、一週間の当番制で職員が献立を立てている。 | ※                          | 1日の食事カロリーを数値で捉えた事はなく、職員全員が献立作成に携わっているため、栄養に関する専門的な指導を受ける機会を設けることを望む。 |
| 78   |      | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）       | (自己評価)<br>マニュアルの作成、清潔に保てるよう環境整備を行っている。手洗いを十分に行うことを勧めている。           | ※                          | 流行の前に再確認できるよう、勉強会を行ってきたい。  |
| 79   |      | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている      | (自己評価)<br>フキンやまな板の消毒などを徹底している。賞味期限の確認をしながら調理している。                  | ※                          | 目に見えないものであるだけに、もっと意識を持てるよう勉強会を実施したい。                                 |

| 自己評価                           | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)        |
|--------------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |      |   |  |                            |   |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>         |      |   |  |                            |   |
| 80                             |      | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                              | (自己評価)<br>玄関内の飾り付けやプランターなどを置いている。  |                            |   |
| 81                             | 29   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>行事ごとの写真を飾ったり、花を置いたりしている。トイレは毎朝掃除をしており、その他汚れるたびに掃除もしている。<br><br>(外部評価)<br>玄関にはベンチも置かれ、開放的で明るい。居間には山からの風が入り心地よい。臭いや大きな音はなく、自然光が十分入っている。台所も清潔が保たれている。リネン室があり、シーツや薬剤は一括収納されている。    |                            |   |
| 82                             |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                              | (自己評価)<br>たたみコーナーを設置しており、そこで談話したり、テレビを見られる方もいる。  | ※                          | 独りになれる空間についての工夫を検討していく。                       |
| 83                             | 30   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | (自己評価)<br>入居前には部屋に入るものならなじみのものを持ち込んでほしいとお願いしている。入居されてからも、本人や家族と相談して持ち込むこともある。<br><br>(外部評価)<br>エアコン、タンス、ベッドは備え付けている。利用者が家から持ってきた写真なども思い思いに飾ってある。利用者手作りの飾りや習字、好みの歌詞などが貼ってあり、安らげる部屋になっている。 | ※                          | 家族にももっと馴染みのものがどのような効用をもたらすかを理解していただけるようにしていく。 |

| 自己評価                    | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 84                      |      | ○換気・空調の配慮<br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | (自己評価)<br>定期的に喚起を行っている。空調管理は本人と相談しながら行っている。   |                            |  |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり |      |  |   |                            |  |
| 85                      |      | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している          | (自己評価)<br>部屋の配置検討など行っている。しかしもっと工夫が必要である。  | ※                          | もっと本人の力が引き出せるよう、設備の検討をしていきたい。          |
| 86                      |      | ○わかる力を活かした環境づくり<br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している                    | (自己評価)<br>トイレとゴミ箱などの入れ物を間違われる方がいるため、排泄時に付き添えばきちんとできている。入れ物を片付けることも行っている。                    | ※                          | 間違ったとしても、さりげなく対応できるようにしていく。            |
| 87                      |      | ○建物の外周リや空間の活用<br>建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている                            | (自己評価)<br>ベランダにプランターを置き、見て楽しんだり水遣りをすすんでされる方もいる。洗濯物を干していただいている。庭は遊歩道や畑があり、散歩や農作物の世話などを行っている。 |                            |  |

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

| V. サービスの成果に関する項目 |  |   |
|------------------|--|---|
| 項目               | 取り組みの成果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)  | 判断した具体的根拠   |
| 88               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の<br>2 利用者の2/3くらいの<br>3 利用者の1/3くらいの<br>4 ほとんど掴んでいない                  | 全職員が把握するためにも記録が必要だと思われるが、不十分である。話し合いの中で意見を出し合い、介護計画に取り入れているが意向が反映できていない部分もあるため、把握に努めていきたい。              |
| 89               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(自己評価) ① 毎日ある<br>2 数日に1回程度ある<br>3 たまにある<br>4 ほとんどない                                      | 一緒に行動することを大切にしている。腰掛けて会話をしたり、入浴や散歩、ドライブなど個別に時間を共有することができる。  |
| 90               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                           | 希望したときに行えるよう努力しているが、待たせてしまうこともある。   |
| 91               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                | 感情が不安定になりやすい方が多いが、個別に接することで、落ち着きや笑顔が見られることも多い。  |
| 92               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                          | 自宅や知人宅、行楽地など希望に応じて出かけられるよう援助している。散歩やドライブで気分転換が図れるよう努めている。   |
| 93               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                   | 不安感を持たれている方もおり、医療機関と協力しながら対応していくよう努めている。  |
| 94               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>③ 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない           | 全体として捕らえるのではなく、個別に対応することによって柔軟な対応もできていると思っている。もっともっと関わって、その人を知っていかなければならないと感じる。理解しあってはじめて安心感も生まれてくると思う。 |
| 95               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての家族と<br>② 家族の2/3くらいと<br>3 家族の1/3くらいと<br>4 ほとんどできていない | 面会に来られたときや家族会などで聞かせていただいている。求めていることを実現していけるよう努力する。  |
| 96               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(自己評価) 1 ほぼ毎日のように<br>2 数日に1回程度<br>③ たまに<br>4 ほとんどない                              | ボランティアや、面会に来られる方がいる。毎日来ていただく家族もある。  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                                     | 判断した具体的根拠  |
|-----|---|---|--|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ① 大いに増えている<br>(自己 2 少しずつ増えている<br>評価) 3 あまり増えていない<br>4 全くいない           | 行事など協力していただく方が増え、大変感謝している。地域密着ということについて相談もしやすい。  |
| 98  | 職員は、生き活きと働けている  | 1 ほぼ全ての職員が<br>(自己 ② 職員の2/3くらいが<br>評価) 3 職員の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない       | 様々な面で不安や不満も抱えていると感じるが、利用者と向き合おうとする姿勢を持っており、よくがんばっている。                                      |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | 1 ほぼ全ての利用者が<br>(自己 2 利用者の2/3くらいが<br>評価) ③ 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない    | 満足という点では疑問である。入浴や外出など、部分的に喜ばれることもあるが、生活全般において考えるとまだまだであると感じる。                              |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | 1 ほぼ全ての家族等が<br>(自己 2 家族等の2/3くらいが<br>評価) ③ 家族等の1/3くらいが<br>4 ほとんどできていない | しっかりと見てほしいという気持ちがすごく伝わってくるが、それを満足できるほどに実現できているか疑問である。全職員が家族の思いをしっかりと受け止め、実現していくよう努力していきたい。 |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者の持っている力を引き出せるよう援助していきたいと考えている。そのために先に手を出して邪魔をしないこと、待つ姿勢を大切にしていきたい。先入観や自分の都合で行動しないことも重要である。今、自分にできることから、それを今日から始めることを大切にしたい。

地域に貢献できる場でありたい。地域に出かけ、受け入れられるよう努力していく。蒼月に気軽に来てもらえるよう、行事を行っていく。納涼祭は今年で2回目となるが、今回は同地区にある他2施設と協力して実施することとなった。この実現は地域の方のご尽力によるものであり、3施設合同の行事としてはクリスマス会や七夕会も実施した。納涼祭では地域の方に呼びかけているので、これをきっかけに来やすい雰囲気作りができればと期待している。

この地域で一緒に生活しているのだという喜びと安心感が持てるよう、これからも地域に根ざした活動を広げていきたい。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目  
(評価項目の構成)

## I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

## III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

## IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

## V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー  
“愛媛県地域密着型サービス評価”

## 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
  - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
  - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

## ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム蒼月

(ユニット名)

第2ユニット

記入者(管理者)

氏名

浮村 祐政

評価完了日

平成 19 年 8 月 18 日

(別表第1)

## 自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

| 自己評価               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                            |
|--------------------|------|--|---|----------------------------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |      |  |   |                            |   |
| <b>1. 理念と共有</b>    |      |  |   |                            |   |
| 1                  | 1    | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている       | (自己評価)<br>新風会独自の運営理念を作っているとともに、グループホーム蒼月としての理念も作り、面会者やスタッフがいつでも目にする位置に掲げている。<br><br>(外部評価)<br>運営法人の理念に沿って、ホーム独自の介護方針を各ユニットのホーム長が協同で作っている。一年の目標、一か月の目標を職員が話し合って決め、掲示している。  | ※                          | ホームのある地区外に居住する職員も多いので、ホームは地域の一員であることを自覚するために地域に関する具体的な理念の作成を期待する。 |
| 2                  | 2    | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                          | (自己評価)<br>グループホームに関わる法令の意義を理解し、運営理念を掲げている。また職員全員の話し合いによって、理念の中から目標を決め、事務所に掲げて日々取り組んでいる。しかし、最近入社した職員は、理念の理解が不十分である。<br><br>(外部評価)<br>管理者と職員は月1回の職員会とケアカンファレンスで理念に基づいたケアを行うことを話し合い共有している。日々の生活の中で困った時も職員同士で話し合っている。 | ※                          | 定期的にスタッフ各自、理念に基づきつくった目標の評価と話し合いをしたいと思う。                           |
| 3                  |      | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | (自己評価)<br>入居者や家族・地域の方がホームに来られた際、グループホームの廊下など見える位置に理念を掲示している。  | ※                          | 理念に専門用語が入って、やや分かりにくいいため、「ホームだより」などを利用して、分かりやすく説明を入れた掲示をしたいと思う。    |

| 自己評価                         | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                    |
|------------------------------|------|--|--|----------------------------|---|
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |      |  |  |                            |   |
| 4                            |      | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている      | (自己評価)<br>近くを通られた方に話しかけるようにしているがまだ十分ではなく、気軽に立ち寄れる様子ではない。   | ※                          | 気候が良い時期には、利用者様との散歩を多くもち、顔見知りになっていただく機会を確保したい。             |
| 5                            | 3    | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている        | (自己評価)<br>地域の行事案内や活動案内を区長さんや小学校等からいただく機会があり積極的に参加している。しかし、たくさんある中の一部にすぎず、地域の一員としての交流は、まだ不十分である。<br><br>(外部評価)<br>広報は民生委員が持参してくれる。小学校の運動会や祭りに声をかけてもらい、参加している。また、ホームが行事を開催することにより地域の子どもたちがホームに立ち寄るようになり、親近感を持って受け入れてくれるようになってきている。                     | ※                          | 地域の組合に加入を検討し、管理職員以外のスタッフも地域の方々と積極的におつきあいができる場面をつくっていききたい。 |
| 6                            |      | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | (自己評価)<br>地域の高齢者の皆さんや子供さん達が楽しみをもって参加できる企画の一つとして、毎年夏に納涼祭を企画している。多田地区の他のグループホームやデイサービス事業所とも一丸となって、話し合いの場を積極的にもっている。しかし蒼月独自としては、まだまだ不十分であり、もっと話し合いの場を拡大していく必要がある。   | ※                          | 将来的には、「介護教室」や「認知症の学習会」を地域で行なえるように取り組んでいきたい。               |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |      |  |  |                            |   |
| 7                            | 4    | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる          | (自己評価)<br>スタッフ全員一人ずつ自己評価を行い、意味を理解していく取り組みは行っている。改善点の案は多数あるが、具体案が整理されておらず、まだ不十分な点が多い。<br><br>(外部評価)<br>自己評価は管理者、職員全員で取り組んでいる。外部評価実施後、できることから改善に取り組んでいる。管理者は認知症介護の経験が豊富にあり、課題を数多く認識しているが、介護業務に従事しているため、解決することに専念し難い。職員会や運営推進会議などを利用して一つ一つ善処することを期待したい。 | ※                          | 改善点を整理し文書化したうえで、職員会などで具体的な対策の検討をしたいと思う。                   |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                |
|------|------|---|---|----------------------------|---|
| 8    | 5    | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている         | (自己評価)<br>運営推進会議でサービスの実際や報告を定期的に行っており、出された提案や意見を職員会議でスタッフに伝え、意見に反映した改善に努めている。運営推進会議には、管理者とホーム長のみが出席しているが、現場のスタッフも参加したいとの意見もでている。<br><br>(外部評価)<br>利用者、家族、区長、市担当者、民生委員、地域の福祉施設職員などが参加し、ホーム内で1～2時間行っている。活発な意見交換ができており、過疎が進む地域にあって、子ども達に対して、或いは若い人の交流の場として活動を求められるなど周辺の期待は大きい。 | ※                          | ローテーションで一人ずつ、管理職員以外のスタッフも運営推進会議に参加してもらい、サービス向上に活かしたい。 |
| 9    | 6    | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                          | (自己評価)<br>運営推進会議での意見交換はもちろんであるが、その他分からないことがあったり、サービスの課題がある時は、各市の担当者に相談を行なっている。<br><br>(外部評価)<br>運営推進会議のメンバーとして、市の担当者が入っている。介護教室開催などの要請はないが、市主催の情報交換会に出席している。  |                            |   |
| 10   |      | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | (自己評価)<br>管理者は制度について知っており、対象者があれば地域包括支援センターと連携をとりながら支援できる体制がある。しかし、職員には権利擁護に関する勉強会をまだしておらず、理解できていない部分が多い。   | ※                          | スタッフ全員が分かりやすい資料を作成し、近日中に理解を深める勉強会を開催したい。              |
| 11   |      | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている          | (自己評価)<br>管理者は、高齢者虐待防止法関連について理解しているが、職員は理解していない者が多い。ケアカンアレンスで虐待に関する話を少ししただけで、まだ理解できるだけの十分な勉強会を行っていない。   | ※                          | 近日中に勉強会を予定している。虐待防止について、さらなる理解を深めていきたい。               |

| 自己評価                   | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |      |   |  |                            |  |
| 12                     |      | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている    | (自己評価)<br>契約時や改定時には口頭及び文書で説明し、同意をもらっている。退去の状態になった時は、本人・家族と十分な説明話し合いをし、納得のいく退所の支援を行なっている。利用案内時の説明文書及び契約書に示し、入居時や事前訪問時に分かりやすく説明し同意を得ている。   |                            |  |
| 13                     |      | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | (自己評価)<br>利用者代表と運営推進会議に参加していただき、積極的に意見を言える機会をつくったり、定期的に市の介護相談員の来所を受け入れ、意見を言えるようにしている。また相談ノートを作成し、日常生活での何気ない会話からも、利用者や家族の意見・不満・苦情を記入して運営に反映させるようにしている。  |                            |  |
| 14                     | 7    | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | (自己評価)<br>面会時などを利用して状態の説明を行ったり、面会ができない家族に対しては、家庭訪問や電話で説明を行なっている。状態の変化時にも、随時連絡するようにしている。状態に異常がみられたら、その都度家族に電話連絡をし、対応の相談を行っている。面会時等に、スタッフから積極的に声をかけ、意見交換や希望の聞き取り・相談を密に行なっている。ホーム側から歩み寄って、話しやすい雰囲気になるよう心がけている。<br><hr/><br>(外部評価)<br>家族の面会時に報告し、希望等を確認している。年3回行われる家族会(花見、バーベキュー、芋炊き等)でも報告している。ホームに来ることのできない家族には主に電話で連絡を取るが、自宅を訪れて説明することもある。 |                            |  |
| 15                     | 8    | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | (自己評価)<br>契約時、相談・苦情の窓口や職員を文書や口頭で説明している。1階の玄関にご意見箱を設置し、気軽に相談・苦情を寄せられるようにしている。家族会において、意見が言いやすいようにホーム関係者不在で、家族同士が相談や要望を言える時間をつくったり、重要事項説明書に公的機関の相談・苦情の窓口の連絡先等を明示している。市の介護相談員の受け入れもしている。<br><hr/><br>(外部評価)<br>玄関に「意見箱」を設けている。重要事項説明書にホーム、運営法人の他、県と市の相談機関も明示している。市の介護相談員も受け入れている。  |                            |  |

| 自己評価               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|--------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 16                 |      | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている  | (自己評価)<br>月に1回の職員会やケアカンファレンス、日々の申し送りなどで意見や提案を聞くようにしているが、もっとゆっくり聞いてもらえる時間をつくってほしいとの一部の職員からあり、まだ十分でない。  | ※                          | 管理職員は、日々の業務の中でも、スタッフの意見がゆっくり聞ける時間を確保していく。  |
| 17                 |      | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている                      | (自己評価)<br>必要な時間帯に職員を確保するため、職員ひとりひとりの意見を聞いている。プライベートの充実でストレス発散できるよう、職員の希望を聞いたうえの勤務調整を心がけている。   |                            |  |
| 18                 | 9    | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | (自己評価)<br>職員の離職や短期間での転勤が多いのが実情である。馴染んできた頃に離職が相次ぎ、利用者へのダメージが大きい。職員の変更がある度に、不安を訴える利用者や家族もいる。<br><br>(外部評価)<br>異動や離職は「ホーム便り」で顔写真とコメント付きで紹介している。異動があるときは1か月間日勤で、1名増員体制で業務を行い、利用者へのダメージを防いでいる。 | ※                          | 極力、異動や転勤がないように、法人代表と検討を行なっていく。またどうしても変更しなければならない場合は、一度に行なうことはせず、利用者様や家族の皆様が少しずつ馴染めるよう配慮していく。 |
| <b>5. 人材の育成と支援</b> |      |  |   |                            |  |
| 19                 | 10   | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | (自己評価)<br>あらゆる研修の呼びかけは行なっているが、受講スタッフが少ない。内部研修として、時々職員会時に勉強会を行なうこともある。<br><br>(外部評価)<br>グループホーム連絡協議会や、地域の研修を職員の希望によって受講できる。出張(研修)報告書を提出すれば、研修費用が出るシステムがある。研修報告書を使って内部研修を行っている。             | ※                          | 介護経験が浅いスタッフにも分かりやすい研修を選び出し、積極的に受講してもらえるようにする。また希望者だけにとどまらず、スキルに応じた研修を順次スタッフが参加できるように体制を整える。  |
|                    |      |  |   | ※                          | ターミナルを視野に入れたホームだけに、職員の医療面の不安を研修で補うことが求められ、更なる努力を期待する。  |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)         |
|----------------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 20                               | 11   | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | (自己評価)<br>多田地区3施設協議会を設立しており、他のデイサービスやグループホームと交流できる機会をもっている。定期的に3施設合同の活動や飲み会を実施し、交流を深めている。<br><br>(外部評価)<br>デイサービスを併設した大きな建物と駐車場を利用し、地域の3つの高齢者福祉施設合同でクリスマス会や祭りを行っている。準備段階から話し合う機会を持つので、自然に情報交換ができ、お互いの良さを共有してレベルアップが図れている。行事だけでなく、勉強会や防災訓練の共同開催の要望も出ている。 |                            |  |
| 21                               |      | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる                                    | (自己評価)<br>食事会や行事後の打ち上げをしたり、業務後に話す機会を設けたりしているが、まだ十分ではなく個々でストレスを解消している部分が多い。  | ※                          | 親睦会を度々行ないながら、悩みを聞いたり話したりできる機会を多くもちたい。          |
| 22                               |      | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている                        | (自己評価)<br>職員の力量に応じた役割を与え、会社で必要な人材であることを実感できる場を提供し向上心につながる取り組みを行なっているが、福利厚生や賃金、パート職員については勤務時間数制限の不満を訴える者が多いのが実情である。  | ※                          | 人事に関することは、法人代表と検討をくりかえし、個々の努力や実績に応じた配慮をしていきたい。 |
| <b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>     |      |   |   |                            |  |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |      |   |   |                            |  |
| 23                               |      | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている             | (自己評価)<br>相談から利用にいたるまで家庭などの訪問を行い、本人自身の悩みや不安なことを聞くようにしている。   |                            |  |
| 24                               |      | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                  | (自己評価)<br>相談から利用にいたるまで家庭などの訪問を行い、家族等の悩みや不安なことを聞くようにしている。希望があれば、管理者個人的の携帯電話番号をお知らせし、いつでも相談できるようにしている。  |                            |  |

| 自己評価                             | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|---|----------------------------|--|
| 25                               |      | ○初期対応の見極めと支援<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                               | (自己評価)<br>当ホーム入居希望の相談を受けたら、十分にお話を伺いホームに適した入居対象者か否かを見極めている。他のサービス利用が適切と判断した場合は、当ホームで抱え込まず、本人・家族の同意のうえ、他のサービス事業者と連携した調整を図っている。  |                            |  |
| 26                               | 12   | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを始めるために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | (自己評価)<br>本人が納得したうえでサービスを利用できるよう、希望があれば体験や見学を積極的に受け入れている。拒否が強い方には、併設のデイサービスを利用しながら、職員や他の利用者、場の雰囲気に少しずつ馴染めてから支援できるよう、デイサービス管理者との連携体制も整備している。<br>(外部評価)<br>管理者は、入居者の自宅に伺うことで日々の暮らしぶりをキャッチし、ケアに生かすことがホームに早く馴染める方法であると考えている。自宅から入居の場合は見学、自宅訪問の後入居となり、病院から入居の場合は病院職員同伴にての見学、入居という運びになり、ホーム入居後、自宅訪問して情報を得ている。 |                            |  |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |      |  |   |                            |  |
| 27                               | 13   | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | (自己評価)<br>分からないことがあれば、人生の大先輩である利用者の皆様に聞き、学ばしていただく機会が多い。できる限り寄り添うことで、その人がどう思っているかを知る努力をしている。<br>(外部評価)<br>職員は、利用者の昔の生活の話や、していた仕事の話聞くことを楽しんでいる。料理の仕方を教わったり、テレビの時代劇を一緒に見たりして、時間を共に過ごしている。  |                            |  |
| 28                               |      | ○本人と共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている                                 | (自己評価)<br>面会時には、積極的にご家族様に話しかけ、ご家族の思いや考えを聞くようにしている。面会の少ないご家族様には、定期的に電話連絡をしたり家庭訪問を行いながら、関係を深める努力をしている。  |                            |  |

| 自己評価                          | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 29                            |      | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援<br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している             | (自己評価)<br>スタッフ全員が、ご家族様が一番の支援者であることを認識しており、できるだけご家族様との関わりが途絶えないように努めている。援助に関することは、定期的にご家族様を交えての担当者会議を開催したり、ホーム来所ができないご家族様には、電話や家庭訪問をするなどして、利用者様とご家族様の距離が離れてしまわないように配慮している。また利用者様の暮らしぶりは、「ホームだより」を作成し、ご家族様に毎月送付している。   |                            |  |
| 30                            |      | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている               | (自己評価)<br>馴染みの場所や馴染みの人間関係を大切に援助にあたっている。昔の仕事上の知人や馴染みの友人が度々ホームに会いに来て下さる場面も多い。また馴染みの場所へ行くことをケアプランに反映させ、援助にあたっている。   |                            |  |
| 31                            |      | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | (自己評価)<br>気の合う利用者様同士の外出や活動をしたり、またその一方では、気の合わない利用者様同士は、座る場所の調整をしたり表情や言葉に気をつけ、トラブルを未然に回避するよう心がけている。しかし、どうしても他の利用者様と馴染めない方もおり、個別的にスタッフとの活動を中心に行なっている。   | ※                          | 関係が密になりやすく、トラブルが発生しやすいため、その人の性格や背景もしっかりアセスメントし、今後も表情や言葉から察知する対応力をスタッフ一人一人みにつけたい。 |
| 32                            |      | ○関係を断ち切らない取り組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | (自己評価)<br>サービス利用終了したご家族が、気軽に遊びに来ていただける場面もあり、サービス利用が終了しても、家族会や各行事等参加への定期的なご案内を積極的にしている。   |                            |  |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント |      |  |  |                            |  |
| 1. 一人ひとりの把握                   |      |  |  |                            |  |
| 33                            | 14   | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                   | (自己評価)<br>ひとりひとりの「～したい」との意向を一番大切に援助を行なっている。日常生活の何気ない会話から、その人の思いや気持ちを汲み取るよう努力し、相談ノートや申し送りノートを活用しながら、職員全員に周知を図り、ケカンファレンスなどで積極的に検討する機会をもっている。<br><br>(外部評価)<br>今年から家族や利用者の声を介護計画に生かそうと、ノートに書き取り、情報を職員が共有できるようにしている。食事中落ち着かない利用者には好きなドライブをしてから食事をすすめるなどの工夫をしている。 |                            |  |

| 自己評価                                  | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------------|---|
| 34                                    |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                    | (自己評価)<br>相談ノートや申し送りノートでの周知やケアカンファレンスで相互理解をもつ機会をもっているが、これまでの暮らしをきちんと書式化してはいない。  | ※                          | 現在センター方式の「私の暮らしシート」を一人一人作成中である。このアセスメントシートで、これまでの暮らしをしっかりと把握し、援助にあたっていききたいと思う。            |
| 35                                    |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている  | (自己評価)<br>センター方式の「できることできないことシート」など一部のアセスメントツールを使用し、もてる力の把握を行なっているが、全体像の把握が一部分にすぎているのが現状である。  | ※                          | 現在センター方式の「できること、できないことシート」を一人一人見直し作成中である。今後、必要なアセスメントシートを随時追加していき、全体像の把握をスタッフ全員で行なっていきたい。 |
| <b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b> |      |   |   |                            |   |
| 36                                    | 15   | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | (自己評価)<br>利用者ひとりひとりの状態にそった、具体的な介護計画を作成している。定期的にケアカンファレンスを開催したり、家族とのサービス担当者会議を開催し、それぞれの意見やアイデアを積極的に聞く機会を設け、介護計画に反映させている。<br><hr/> (外部評価)<br>1冊の介護記録に全員の長期介護計画、1か月の介護計画、1日の介護計画がまとめてファイルされ、ケア目標を確認しながら記入している。利用者・家族ノート、申し送りノート(利用者用)、申し送りノート(スタッフ用)と3冊のノートを作っている。 | ※                          | 個別記録内容が項目別にそれぞれ別用紙に記載されており、利用者一人ひとりの全体像が把握し辛い。様式や記入方法を職員同士の話し合いを重ね、改善について検討することを期待する。     |
| 37                                    | 16   | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | (自己評価)<br>介護計画は3～6ヶ月に1回は見直すことにしているが、利用者の状況により、随時見直すことにしている。その場合もケアカンファレンス開催・家族とのサービス担当者会議開催を行なっている。<br><hr/> (外部評価)<br>介護計画は3～6か月に1回完全な見直し作業を行って、月に1回のカンファレンス会議では、利用者全員について話し合っている。利用者の状態に変化があった場合には、随時見直している。  |                            |   |

| 自己評価                               | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)             |
|------------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 38                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている    | (自己評価)<br>利用者ひとりひとりの日々の状態や変化、その人らしさを具体的に記録している。また業務日誌や申し送りノートなどで職員間で情報共有ができるよう工夫している。  |                            |  |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |      |  |  |                            |  |
| 39                                 | 17   | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている              | (自己評価)<br>本人や家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援を行なっている。行きたい場所への外出や受診、家族代理としての支援を積極的に行なっている。<br><br>(外部評価)<br>家族も高齢な方が多いこともあり、利用者の通院はほぼホームが支援している。利用者の希望に応じて、昔よく行ったお寺、神社のお参りや、墓参り、買物など、細やかな対応を心がけて支援している。 |                            |  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |      |  |  |                            |  |
| 40                                 |      | ○地域資源との協働<br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | (自己評価)<br>まだ少ないが、地域の子供さん対象のボランティアを受け入れたり、行事などにも地域のボランティアの方々が積極的に来て下さっている。また小学校の夏祭りや運動会にも参加させていただいたり、民生委員さんや区長さんにも、地域資源の情報を教えていただいたりと、ご協力を賜っている。  |                            |  |
| 41                                 |      | ○他のサービスの活用支援<br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | (自己評価)<br>本人の意向や必要性があれば、他のサービスを利用できるよう支援体制を整えている。福祉用具に関して、他の事業者と積極的に話し合い適切な用具選びをしたり、在宅医療サービスに関しては、主治医と積極的に意見交換を行ったりしている。   | ※                          | 地域や自治会が主になっている活動など、インフォーマルなサービス利用の幅を広げていきたいと考えている。 |
| 42                                 |      | ○地域包括支援センターとの協働<br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | (自己評価)<br>権利擁護など総合的なケアマネジメントについて、地域包括支援センターと話し合う場面をもっている。  |                            |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------|------|--|---|----------------------------|--|
| 43   | 18   | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                          | (自己評価)<br>入居時や必要時に、本人や家族に相談し決定している。契約や連携をしている医療機関があり、状態の変化時には相談できる体制を確保している。<br><hr/> (外部評価)<br>運営者の経営する医療機関以外の病院がかかりつけの利用者もいる。定期的に往診もあり、利用者の健康管理に留意している。   |                            |  |
| 44   |      | ○認知症の専門医等の受診支援<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している                         | (自己評価)<br>当ホームの協力医療機関の医師や精神科の医師より、指示や助言をもらっている。日中・夜間ともに連絡先を聞いており、24時間体制での相談に応じてもらえる。  |                            |  |
| 45   |      | ○看護職との協働<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている  | (自己評価)<br>協力医療機関の看護師や当ホームの看護経験のあるスタッフに、24時間体制で気軽に相談し、健康管理・医療の活用を行なっている。   |                            |  |
| 46   |      | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | (自己評価)<br>家族と相談しながら、医療機関との連携がとれるよう医師や看護師と話し合ったり、協力を行なっている。  |                            |  |
| 47   | 19   | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している              | (自己評価)<br>重症化・看取り体制の指針を整備している。協力医療機関の神南診療所で、24時間体制で在宅終末期医療を受けられるように話し合っている。重症化した場合は、ご家族様や医療機関の関係者とその都度話し合いを設け、全員で方針を共有するように心がけている。<br><hr/> (外部評価)<br>重度化および看取りに関する指針とターミナルケア説明書を作成し、今の時点で、ホームでできること、できないことを家族に十分説明している。管理者は、グループホームは認知症の方をどなたでも受け入れる場所と認識している。運営者や職員、家族とも話し合いを重ねている。 |                            |  |

| 自己評価                      | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|---------------------------|------|---|---|----------------------------|--|
| 48                        |      | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | (自己評価)<br>重症化・終末期の利用者がおれば、家族との連携を密にとり、スタッフ全員で検討できる体制を整えている。かかりつけ医との連携がスムーズに図れるように、医療連携マニュアルを作成したり、スタッフ全員が変化に応じて検討できるように努めている。                     | ※                          | 文書による理解だけではなく、定期的に重症化や看取りに対する学び機会をもち、ケアカンファレンス等で検討していきたい。  |
| 49                        |      | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている                      | (自己評価)<br>住み替えに関しては、本人や家族と十分に話し合っているようにしている。希望があった時は、転居先のケア関係者と密に情報交換を行ったり、必要な情報提供表の作成を行なっている。  |                            |  |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 |      |   |   |                            |  |
| 1. その人らしい暮らしの支援           |      |   |   |                            |  |
| (1) 一人ひとりの尊重              |      |   |   |                            |  |
| 50                        | 20   | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない  | (自己評価)<br>利用者との信頼関係ができて良い部分もあるが、スタッフの言葉使いや礼儀に関して、「馴染み」と「馴れ合い」が混同している部分がある。<br><br>(外部評価)<br>職員は利用者に対して丁寧な対応を心がけている。書類はリビングが見渡せる事務所の奥の棚に適切に保管している。 |                            | 利用者を自分に置きかえて、利用者の気持ちをくみとる・分かりやすい言葉かけや対応など、コミュニケーションのとり方を原点に戻って学ぶ必要がある。「自分のケアの振り返り」を定期的にカンファレンスなどを利用して行なっていきたい。 |
| 51                        |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている  | (自己評価)<br>食べたいものを選んだり入浴時間を選んだり、行きたい場所への外出など積極的な働きかけを行なっている。しかし希望を言われる人と言われない人がおり、言われない人はスタッフが決めている時が多い。   | ※                          | その人の好みや家庭での状況の把握をしっかり行い、いろんな選択肢を提供しながら、表情や小さな動作からの希望を読み取る力を身につける。また日頃の何気ない一言から、その人のやりたい事をひろいあげるようにしていきたい。      |

| 自己評価                          | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 52                            | 21   | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | (自己評価)<br>できるだけ自宅で生活していた時のペースを大切に、食事時間や入浴・起床・就寝など、その人に合わせるよう努力している。晩酌や朝風呂を楽しんだり、自分の好きな時に昼寝をするなど、個人の生活リズムに合わせた援助を心がけている。<br><br>(外部評価)<br>ホーム全体に利用者の笑顔と職員の静かな話し声があふれ、ゆったりとした関わりがなされている。食事の時間もかなり長めに取っており、「待つ」姿勢が見られる。   |                            |  |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |      |  |  |                            |  |
| 53                            |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている            | (自己評価)<br>着替えを準備する時など、利用者と一緒に、自分の着たい服を選んでもらうようにしている。本人の希望時に、訪問理美容をお願いして好きな髪形にしたり、洋服を買いに外出したりしているが、馴染みの理美容店にはまだ行く機会がもてていない。   | ※                          | 利用者の馴染みの理美容院利用ができるように配慮していきたい。         |
| 54                            | 22   | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | (自己評価)<br>利用者の状態や体調に合わせて食材を変えたり、形状(刻む・薄くする・柔らかくなるまで煮込む)などの工夫をしている。盛り付けも美味しそうに見えるように、彩りを考えて食材を選んでいる。食事の準備や片付けを一緒に行ない、スタッフも利用者と同じ食事をし、常に近くで見守りをしたり、食事に介助を要する利用者には、食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行なっている。<br><br>(外部評価)<br>利用者は職員と共に調理、配膳、台ふき、片付けなどを行っている。職員は同じテーブルに着き、会話を楽しみながらさりげなく支援している。職員はすぐには手を出さず、見守り中心の声かけを心がけている。 |                            |  |
| 55                            |      | ○本人の嗜好の支援<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している            | (自己評価)<br>好きなおやつや飲み物を聞いたり、食べたいものを提案してもらいながらティータイムを楽しんでいただくよう努力している。毎日晚酌を楽しむ方もおられる。現在たばこを吸われる方はおられないが、希望時には楽しめるようにしたいと思う。   |                            |  |

| 自己評価                          | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|--|----------------------------|--|
| 56                            |      | ○気持ちよい排泄の支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している       | (自己評価)<br>排泄の失敗やおむつ使用をできる限りしないように、排泄パターン表を作成し、必要な利用者には記入を行っており、排泄の自立に向けた支援に力を入れている。全員トイレでの排泄実施を行い、できるだけ布パンツでの対応に移行するようにしている。   |                            |  |
| 57                            | 23   | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | (自己評価)<br>入浴の回数や長さは、概ね利用者の希望に合わせているが、夜間の入浴に関しては、現時点希望者もおらず、スタッフの人数の関係で行っていない。<br><br>(外部評価)<br>入浴は毎日可能な状態である。昼から夕方にかけての時間帯が多いが、入る順番や時間帯は本人の希望に添うようにしている。   | ※                          | 夜間入浴の希望者がおれば、職員を調整し入浴できる体制にしたい。        |
| 58                            |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している                    | (自己評価)<br>だいたいの睡眠パターンの把握はできている。眠れない利用者には、日中しっかり動いてもらったり、夜食や温かい飲み物などを提供したり、室温や寝具・衣類の調整など安眠への配慮を行なっている。希望者には、医師や家族と相談のうえ、寝る前の晩酌も行なっている。昼の間で横になったり、居室で休んでもらったりしながら適度に休息をとってもらうように配慮している。  |                            |  |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |      |   |  |                            |  |
| 59                            | 24   | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | (自己評価)<br>家事の得意な利用者には家事仕事（調理や洗濯・掃除）、話し好きな方には誕生会でのスピーチや、医学知識のある方からは先輩としてのアドバイスをもらったり、手先の器用な利用者からは装飾品を作ってもらったりと、日常的に活躍の場面作りをしている。スタッフも感謝し喜び合う言葉掛けをしている。運営推進会議では、利用者代表として積極的に発言し、運営に関する役割をもっている方もおられる。<br><br>(外部評価)<br>調理、洗濯物干し、掃除などを職員と楽しみながら行っている。行事などでもそれぞれの役割をもって楽しんでいる。 |                            |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------|------|--|--|----------------------------|---|
| 60   |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | (自己評価)<br>ホームで預かっている現金もあるが、希望があれば利用者の状況に応じて家族と相談しながら、少ない額のお金を持ってもらっている。しまい忘れや紛失のトラブル対策として、常に身につけておけるように、首からぶら下げタイプの中着袋を作成したりしている。  |                            |   |
| 61   | 25   | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                    | (自己評価)<br>外に出たいとの希望がある時は、基本的に制止することせず、危険のない範囲での見守りや付き添いで対応している。ホーム周囲の散歩は行なっているが、外出は車に頼っているのが多い。<br><br>(外部評価)<br>自由に外出できるので毎日散歩に出かける利用者もあり、職員は見守りながら寄り添っている。帰宅願望がある利用者には、自宅に外泊が可能であれば外泊して気持ちを落ち着かせてもらっている。管理者は「帰りたい」という希望があればその都度対応するよう心がけている。 | ※                          | 日常的に隣近所を散歩したり、一人で外に出ることができない方には、気候の良い時に日光浴や夕涼みを楽しむ機会をつくりたい。                       |
| 62   |      | ○普段行けない場所への外出支援<br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | (自己評価)<br>個人・他の利用者同士をで、回転寿司や地域の飲食店への外食、行きたい場所への観光を昼夜問わず積極的に行なっている。お花見には、家族と一緒に外出を行なっている。   | ※                          | 月に1回は、全員普段行けない名所への外出を実施していきたい。また家族会以外でも、日常的にご家族の皆様と一緒に外出できる企画を考えていきたい。            |
| 63   |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                           | (自己評価)<br>いつでも電話や手紙での通信ができる体制ではあるが、先方の迷惑な時間帯には、スタッフが対応することがある。年賀状や手紙をだしたり、家族や知人からの郵便物が積極的に届き交流を深めている。  | ※                          | 遠方に住む家族や友人との交流に、積極的に手紙や電話を利用できるようにホーム側から提案したりしながら、家族の理解を深めプライバシーに配慮した援助を行なっていきたい。 |
| 64   |      | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している            | (自己評価)<br>家族等が訪問した時は、必ず湯茶を出しゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。挨拶などの徹底や、訪問時はホーム側から家族等に声をかけるなどの対応の指導も受け、家族交流に力をいれている。希望者は少ないが、宿泊・食事も可能なシステムにしており、ホームでお友達との食事を楽しまれる方もおられる。  |                            |   |

| 自己評価            | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----------------|------|---|---|----------------------------|--|
| (4) 安心と安全を支える支援 |      |   |   |                            |  |
| 65              |      | ○身体拘束をしないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | (自己評価)<br>声かけや気持ちを聞くことで心理的な負担を取り除き、精神面の拘束にも配慮するとともに、身体拘束を行わないことをスタッフは認識している。  |                            |  |
| 66              | 26   | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                  | (自己評価)<br>三階の玄関や非常口・ベランダなど鍵はあるが、いつでも自由に入出入りできる。外出の察知は、玄関センサーのチャイムを取り付けてあり、やや音が大きい。各ユニットの玄関は閉錠してはいるが、1階がデイサービスとの共有玄関になっており、外に出るにはボタンを押さないと出れない仕組みになっている。<br><br>(外部評価)<br>居室に鍵はかかっている。玄関扉は自動で壁にボタンがあり、閉じている時もボタンを押せば開くことを利用者に伝えており、いつでも外に出られる安心感から、外に無理に出ようとする利用者はいない。 | ※                          | 玄関センサーのチャイム音を必要以上の大きさにしないように心がけている。デイとの共有玄関は、いつでも外に出ることができるように、「ボタンを押してください」の張り紙をし、出入りする方々にお知らせしている。 |
| 67              |      | ○利用者の安全確認<br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している                           | (自己評価)<br>居室におられる時など、プライバシーに配慮しながら安否確認の訪室を行なっているが、利用者全員の状況が把握できていない時もあった。   | ※                          | 居室におられる利用者様には、プライバシーに配慮した定期的な安否確認をしていきたい。  |
| 68              |      | ○注意の必要な物品の保管・管理<br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている                     | (自己評価)<br>スタッフ間で管理場所や保管方法を把握しており、実行に取り組んでいる。注意が必要な物品は、鍵がかかるスチール棚に保管したり、容易にとりだせない工夫をしている。  |                            |  |
| 69              |      | ○事故防止のための取り組み<br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる                  | (自己評価)<br>救急時対応マニュアルや事故対応マニュアルを作成しており、ケアカンファレンスを利用し、スタッフみんなで学ぶ機会を作っている。また事故報告書とヒヤリハットレポートを作成し、事故があった時は必ず記入してもらいながら、ケアカンファレンス等で検討を行なっている。リスクマネジメント委員会も立ち上げているが、まだ活動の場が不十分である。  | ※                          | リスクマネジメント委員会の活動が少ないため、定期的に会議を行い事故防止対策の話し合いを積極的にしていきたい。また毎月1回のケアカンファレンス時を利用して、事例検討をする勉強会を開催していきたい。    |

| 自己評価                       | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|----------------------------|------|--|--|----------------------------|--|
| 70                         |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている                 | (自己評価)<br>新入社員が多く、救命救急士による救命救急法の講習を受けている者と受けていない者がいる。定期的なホーム内での訓練はまだ行っていない。緊急時対応の知識や経験が不十分であり、不安をかかえているスタッフが多い。                            | ※                          | 定期的に全員救命救急・応急手当の講習を受けてもらい、事例を通じた定期的な内部研修も行なっていきたい。   |
| 71                         | 27   | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている   | (自己評価)<br>ホーム内での消防訓練を実施しているが定期的ではなく、地震や水害への訓練はまだ実施されていない。地域との連絡体制について話し合いを行なう機会はあるが、まだ地域の方を交えての具体的な訓練等の実施には至っていない。                         | ※                          | 家族用の緊急連絡網は作成し、各ご家族に配布している。また現在防災マニュアルを作成中である。定期的な避難訓練のスケジュールをたて、ご家族の皆様や地域の皆様も参加していただく避難訓練の実施にとりくみたい。 |
|                            |      |  | (外部評価)<br>年2回防災訓練を行っている。運営推進会議で防災を取り上げ、避難場所の提案や、ホーム敷地内にホース栓を取り付ける予定ができるなど、対策の具体化が進んでいる。家族会でも家族用の緊急時連絡網の作成を依頼され、作成している。                     | ※                          | 熱心に災害対策に取り組んでいるが、災害時には職員が全員を迅速に非難させることは困難と考えているため、地域の協力体制を確保することや、訓練に地域の方々の参加を得るような働きかけを期待する。        |
| 72                         |      | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | (自己評価)<br>入居時から状況に応じての説明を定期的に行なっており、リスクに関しての話し合いも積極的にしている。抑圧のない暮らしへの援助に、家族等の皆さんも協力的である。  |                            |  |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |      |  |  |                            |  |
| 73                         |      | ○体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | (自己評価)<br>毎日バイタルチェックや健康チェックを行い、異常の早期発見に努めている。バイタルチェック表や受診ノートを活用し、状態の変化の記録をしている。また状態変化時には必ず申し送りノート等に記載し、毎日出勤時にチェックを行い、体調等の変化を把握するように心がけている。 |                            |  |
| 74                         |      | ○服薬支援<br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている       | (自己評価)<br>利用者別の薬情報提供表のファイルを作成し、いつでも見れるようにしたり、薬管理表のチェックを行い理解できるようにしている。用法に応じた薬箱を作成し、処方の変化したり症状が変化した時は、申し送りノート等を活用し一人一人の把握に努めている。            |                            |  |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------|------|---|--|----------------------------|---|
| 75   |      | ○便秘の予防と対応<br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる    | (自己評価)<br>毎日牛乳を飲んでもらったり食材の工夫、食後のトイレ誘導を行ったりしている。便秘がちな方には、下剤の調整を適宜行ったり、腹部マッサージを行なっている。またラジオ体操やリハビリ体操をとりいれ、適度に運動ができる機会も提供している。                                      |                            |   |
| 76   |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている              | (自己評価)<br>毎食後のうがいや歯磨きの声かけを行い、口腔内の清潔に努めている。また口腔ケアチェック表にも記入し、定期的な口腔内のチェックを行なっている。歯磨き道具の消毒も週1回行っており、歯磨きの拒否の方には、時間をずらしながらできるだけ行なってもらえるように支援しているが、拒否が多い方もおられ十分とはいえない。 | ※                          | 一日1回でも口腔ケアができるように、利用者様のペースや動きに合わせてのアプローチを行なっていく。必要に応じて定期的な歯科受診や歯科医師からの指導も受けていきたい。 |
| 77   | 28   | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | (自己評価)<br>利用者の食事や水分摂取状況・栄養のバランスの確保はできているが、厳密な数値によるカロリー計算や水分摂取量は把握できていない。   | ※                          | 給食委員会を中心に、高齢者に適切な献立を検討したり、カロリー計算も行なっていきたい。  |
|      |      |   | (外部評価)<br>業務日誌には食事摂取量が記入されている。給食委員会で食事の勉強がなされ、一週間の当番制で職員が献立を立てている。   | ※                          | 1日の食事カロリーを数値で捉えた事はなく、職員全員が献立作成に携わっているので、栄養に関する専門的な指導を受ける機会を設けることを望む。              |
| 78   |      | ○感染症予防<br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）       | (自己評価)<br>感染対策マニュアル及び感染別のマニュアルを作成し、感染者に対しての対応の取り決め実行をしている。感染に対する指示や指導を行なっているが、消毒法の徹底が十分ではない。外部からの感染への配慮が不十分である。  | ※                          | 手洗い方法等の説明書を掲示し、面会の方々への理解も深めていきたい。   |
| 79   |      | ○食材の管理<br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている      | (自己評価)<br>毎日布巾やまな板等の消毒を行っており、食品に関しては、使用する日付の記入をし早めに使用するなどの配慮をしている。給食委員会の職員を食品管理の主とし、冷蔵庫も定期的に掃除し、食材の整理や除菌をしている。   |                            |   |

| 自己評価                           | 外部評価 | 項目  | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                |
|--------------------------------|------|---|--|----------------------------|---|
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |      |   |  |                            |   |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>         |      |   |  |                            |   |
| 80                             |      | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                              | (自己評価)<br>玄関周りに草花を植えたり、芝生のテラスにするなどの工夫は行なっているが、親しみやすいという面ではまだ不十分である。  | ※                          | 鉢植えの花を増やしたり、ホームでの活動案内を掲示しながら気軽に立ち寄れる雰囲気のあるホーム作りに努めたい。                 |
| 81                             | 29   | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | (自己評価)<br>物品や装飾や季節に応じた壁紙など、少しずつ取り揃えて努力はしているが、まだ施設と言う感じが家庭的とは言えない。音や光に関しては、生活しやすいよう配慮を行なっている。玄関の靴箱が施設的であるとの意見があったが、利用者や家族等と相談の結果、「名前を貼付し本人が置き場所を覚えているので、そのままの方が良い」との意見が多数のため、靴箱の変更は保留としている。<br><br>(外部評価)<br>玄関にはベンチも置かれ、開放的で明るい。居間には山からの風が入り心地よい。臭いや大きな音はなく、自然光が十分入っている。台所も清潔が保たれている。リネン室があり、シーツや薬剤は一括収納されている。 | ※                          | のれん等を利用したり、トイレも飾りをつけ暖かい雰囲気を出すようにしている。廊下の片隅に、いつでもくつろげるソファを用意したい。       |
| 82                             |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                              | (自己評価)<br>フロアに畳の間があり、そこで利用者同士が話したり自由に過ごせるようになってきているが、共有空間で一人で過ごすスペースはなく、一人になりたい利用者には居室で過ごすことが多い。   | ※                          | 一人になりたい利用者の空間確保として、廊下等にくつろぎのスペース（椅子やこじんまりとしたテーブルの配置や本棚）を確保したい。        |
| 83                             | 30   | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | (自己評価)<br>馴染みの写真や自分で作った作品を飾ったり、ラジオやテレビを持ち込んでいる方もおられる。家具に関しては、ホーム据え置きタンスと電動ベッドを利用されている利用者も多く、使い慣れた家具を持ち込んでいる人はほとんどいない。<br><br>(外部評価)<br>エアコン、タンス、ベッドは備え付けている。利用者が家から持ってきた写真なども思い思いに飾ってある。利用者手作りの飾りや習字、好みの歌詞などが貼ってあり、安らげる部屋になっている。   | ※                          | 今後も在宅で使用していた家具の持ち込みを積極的にすすめていく。また担当スタッフごとに利用者と話し合っ、その人らしい居室の環境作りを行なう。 |

| 自己評価                    | 外部評価 | 項目   | 取組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ※印<br>(取組みたい又は取組みを期待したい項目) | 取組みたい又は取組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-------------------------|------|--|---|----------------------------|---|
| 84                      |      | ○換気・空調の配慮<br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | (自己評価)<br>注意して換気を行なっているが、玄関やトイレなど時々臭いがすることがある。冷暖房の調節は、利用者に応じて調節を行なっている。   | ※                          | 一日数回の換気とトイレの掃除（汚れたら掃除）を強化していく。特にトイレの床面は尿こぼしによる臭いが付着しやすいため、今後も薄めたハイター等で頻回に拭き、脱臭剤の適宜交換や優しい香りのポプリなどを置くようにする。 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり |      |  |   |                            |   |
| 85                      |      | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している          | (自己評価)<br>トイレや廊下に移動しやすいよう手すりを設置している。また手すりのない位置には、その人の状況に合わせ安全性を考えたタンスやベッド・椅子を配置し、伝え歩きやつかまりやすい環境にする工夫をしている。洗濯を干す時には、背が低い人や椅子に座ってでも干しやすいように、ハンガー等の物品選びにも配慮している。 |                            |   |
| 86                      |      | ○わかる力を活かした環境づくり<br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している                    | (自己評価)<br>トイレ入り口に2色の床面の所があり、時々段差と間違えてしまう利用者がある。大きな観葉植物などは、人や動物と誤認しやすいため設置はしていない。トイレにはトイレの表示、居室には名前を一人ずつ掲示している。また迷っているような行動がみられたら、さりげなく誘導している。                 |                            |   |
| 87                      |      | ○建物の外周りや空間の活用<br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている                            | (自己評価)<br>ベランダで日光浴や夕涼みを楽しむスペースがあり、よく外の空気を吸いに出られている。ベランダに花を植えているが、少ししかなく、環境面での整備は不十分ではなかとと思う。  | ※                          | ベランダに草花を多く配置し、少しでもベランダや外周りに出たいと思えるような環境面の整備をしていきたい。   |

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

| V. サービスの成果に関する項目 |  |   |
|------------------|--|---|
| 項目               | 取り組みの成果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)  | 判断した具体的根拠   |
| 88               | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の<br>2 利用者の2/3くらいの<br>③ 利用者の1/3くらいの<br>4 ほとんど掴んでいない                  | 全職員が把握するためにも記録が必要だと思われるが、不十分である。話し合いの中で意見を出し合い、介護計画に取り入れているが意向が反映できていない部分もあるため、把握に努めていきたい。              |
| 89               | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(自己評価) ① 毎日ある<br>2 数日に1回程度ある<br>3 たまにある<br>4 ほとんどない                                      | 一緒に行動することを大切にしている。腰掛けて会話をしたり、入浴や散歩、ドライブなど個別に時間を共有することができる。  |
| 90               | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>② 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                           | 希望したときに行えるよう努力しているが、待たせてしまうこともある。   |
| 91               | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>② 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                | 感情が不安定になりやすい方が多いが、個別に接することで、落ち着きや笑顔が見られることも多い。  |
| 92               | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>② 利用者の2/3くらいが<br>3 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                          | 自宅や知人宅、行楽地など希望に応じて出かけられるよう援助している。散歩やドライブで気分転換が図れるよう努めている。   |
| 93               | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>③ 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない                    | 不安感を持たれている方もおり、医療機関と協力しながら対応していくよう努めている。  |
| 94               | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が<br>2 利用者の2/3くらいが<br>③ 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない           | 全体として捕らえるのではなく、個別に対応することによって柔軟な対応もできていると思っている。もっともっと関わって、その人を知っていかなければならないと感じる。理解しあってはじめて安心感も生まれてくると思う。 |
| 95               | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(自己評価) 1 ほぼ全ての家族と<br>2 家族の2/3くらいと<br>3 家族の1/3くらいと<br>4 ほとんどできていない | 面会に来られたときや家族会などで聞かせていただいている。求めていることを実現していけるよう努力する。  |
| 96               | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(自己評価) 1 ほぼ毎日のように<br>2 数日に1回程度<br>③ たまに<br>4 ほとんどない                              | ボランティアや、面会に来られる方がいる。毎日来ていただく家族もある。  |

| 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                                     | 判断した具体的根拠  |
|-----|---|---|--|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ① 大いに増えている<br>(自己 2 少しずつ増えている<br>評価) 3 あまり増えていない<br>4 全くいない           | 行事など協力していただく方が増え、大変感謝している。地域密着ということについて相談もしやすい。  |
| 98  | 職員は、生き活きと働けている  | 1 ほぼ全ての職員が<br>(自己 2 職員の2/3くらいが<br>評価) ③ 職員の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない       | 様々な面で不安や不満も抱えていると感じるが、利用者と向き合おうとする姿勢を持っており、よくがんばっている。                                      |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | 1 ほぼ全ての利用者が<br>(自己 2 利用者の2/3くらいが<br>評価) ③ 利用者の1/3くらいが<br>4 ほとんどいない    | 満足という点では疑問である。入浴や外出など、部分的に喜ばれることもあるが、生活全般において考えるとまだまだであると感じる。                              |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | 1 ほぼ全ての家族等が<br>(自己 2 家族等の2/3くらいが<br>評価) ③ 家族等の1/3くらいが<br>4 ほとんどできていない | しっかりと見てほしいという気持ちがすごく伝わってくるが、それを満足できるほどに実現できているか疑問である。全職員が家族の思いをしっかりと受け止め、実現していくよう努力していきたい。 |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

スタッフ全員で考えた目標「笑顔を大切にする」「夢を叶える」を中心に、利用者様が安心して当たり前の生活を送れることに力を入れています。今後は地域の皆様やご家族の皆様にもっと認知症高齢者を理解していただける取り組みをしていき、地域で役割のあるホームとして活動をしていきたいと考えています。